

平成 27 年 度

旭丘中 学校便り

第 9 号

練馬区立旭丘中学校：発行 1月

失敗から学ぶか成功から学ぶか

校長 山谷 安雄

平成28年も、穏やかに迎えることができました。今年こそは良い年をと思うのは、私だけではないと思います。

先日、西武線に乗っていて、電車の中吊り広告で、以前「〇〇成功法」や「〇〇大学合格子育て」というのがあたのを思い出しました。新聞の広告欄にも良く出ています。日本人は、成功から学ぶ国民性であるそうです。それに対して、アメリカは失敗に学ぶ国民性だそうです。第二次世界大戦で開戦当時日本の零戦が、圧倒的にアメリカの戦闘機を負かしていました。ある方の見方ですが、日本は、成功に学びますので、今までの勝つパターンに習ってそれを繰り返していったそうです。それに対してアメリカは、なぜ負けたか、徹底して負けた原因を分析していきました。情報量の違いはもちろんですが、アメリカが取った作戦は、戦闘機を増産することでした。しかし、それでも勝てない。パイロットが未熟であることが負ける原因であることを突き止めました。パイロットの訓練に時間を費やし、アメリカは再起をかけました。もちろん、日本が負けた原因が、これがすべてではありません。様々な要因があつてのことです。

しかし、日本人が成功から学ぶ国民性であることには変わりないと思います。昔は、業界のトップだったが今は、厳しい企業や、逆にあの会社が、こんな製品を作っているのかというような創業当時と全く違うジャンルで有名になっている企業があります。本業がうまく行かず新たな戦略を考えた結果だと思えます。しかし、成功から学ぶ方が楽だから、真似をすれば同じように成功すると思ってしまうことが多くの人や企業が取ろうとする道です。

今の子供達が大人になる頃には、現在日本にない職業につく子供が半分以上になると言われています。「〇〇成功法」と言って、成功から学ぼうとしても、これからの日本では、未知の部分が多く、成功者の後を追うことができない時代になってきます。失敗から学ぶ時代が来ると思えます。アメリカでは、失敗した人の話を好んで聞く傾向があります。そして、失敗した人が、自分で学習したことを元に再チャレンジする。そして、そういう人をアメリカ人は評価します。日本には、再起する仕組みも社会も作られていないと言われています。だから、失敗しないために生き延びることがすばらしいこととなってしまいます。チャレンジすることに躊躇してしまうわけです。同じことの繰り返しであると、先ほどのトップだった企業がいつの間にか、倒産の危機に陥ってしまうわけです。失敗を恐れず、失敗を自分の糧にする力強さが欲しいと思います。

「失敗は成功のもと」失敗は決して無駄ではありません。

日本の金星探査機「あかつき」が5年前の金星軌道投入に失敗して、太陽の周りを惑星のように回っていて、5年ぶりに金星に近づき金星軌道投入が満を持して成功しました。前回5年前の失敗から多くを学び、再度の挑戦でした。日本人の技術力の高さを示すと共に日本人が変わりつつあることの証明だと思えます。「失敗を恐れず、失敗から多くのことをぜひ学んで行って欲しいです。」

【生徒の活動】

○練馬区生徒作品展の様子

H 2 8 年 1 月 9 日～1 3 日

練馬区美術館



美 術

技 術



家 庭



D 組



○命の授業

1 2 月 1 8 日 (金) 本校体育館



毎年、本校では「命の授業」を行っています。今年も、平成20年の常磐線の荒川沖駅において通り魔による8名が刺される事件で奥様が事件に巻き込まれた山本彰伸様のお話を伺いました。

立ち直るために乗り越えてきた経緯や命の大切さや暴力・いじめの根絶についてお話をいただきました。

【これからの行事】

○ 2年生スキー移動教室

1月30日(土)から番所が原スキー場(宿舎はベルデ武石)を使い行きます。例年になく雪が少ない中での実施です。1/12～区内の中学校で始まりましたが、人工降雪機を使い、実施できているようです。

○ 練馬区連合ダンス発表会

1月26日(火)午後練馬文化センター大ホールにおいて行われます。2年B組の女子が旭丘中学校の代表として発表予定です。

○ 新春かるた会

1月20日(水)午後1時30分～本校体育館で、練馬区青少年育成桜台地区委員会主催で、かるた(百人一首)会をおこないます。